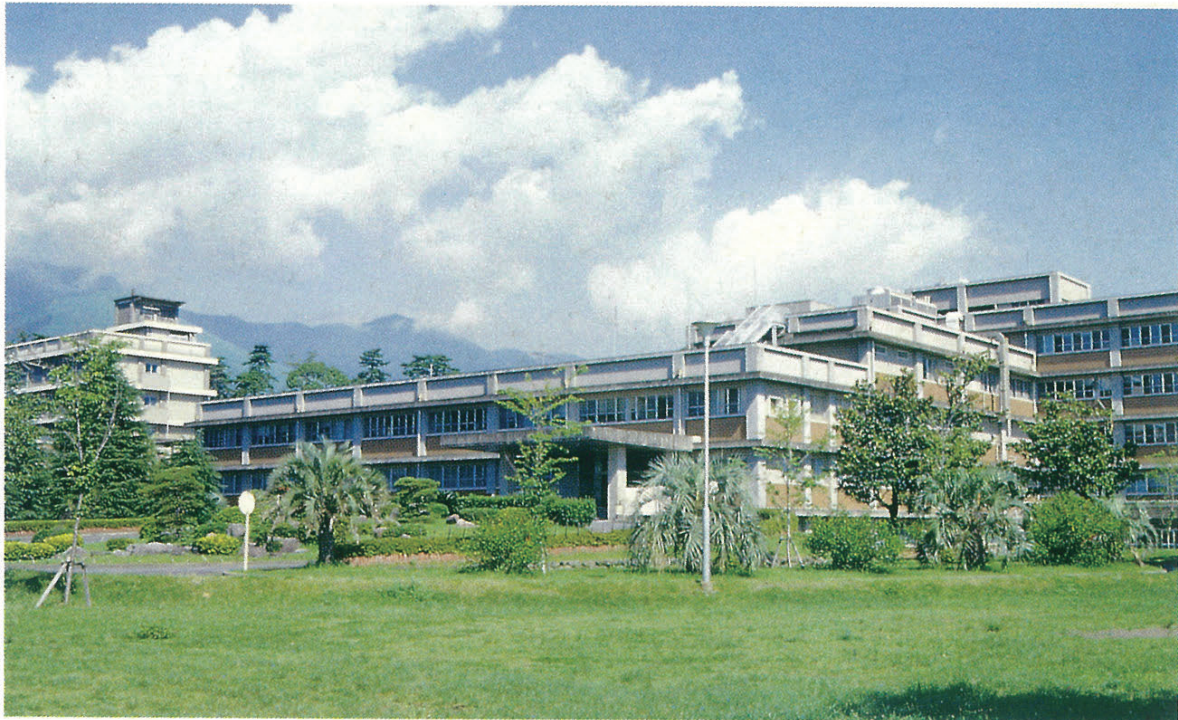


九州大学生体防御医学研究所附属病院

概 要



平成 2 年 度

別府市大字鶴見字鶴見原4546 〒874

電話(代) (0977) 24-5301

目 次

1. 沿 革	1
2. 診 療 活 動	2
3. 機 構 図	6
4. 役 職 員	7
5. 職 員 現 員 表	8
6. 病 床 数	8
7. 患 者 数
(1) 診 療 科 別 患 者 数	9
(2) 診 療 費 用 別 患 者 数	10
8. 経 理 状 況	11
9. 医 療 機 関 の 指 定 及 び 公 費 負 担 医 療 実 施 状 況	12
10. 敷 地 と 建 物	13
11. 配 置 図	17
12. 所 在 地 略 図	18

1. 沿革

昭和6年

10月31日 勅令第266号をもって、温泉治療学研究所官制が定められ、九州大学に附置され、内科部門をもって発足した。

昭和11年4月 外科部門増設

昭和29年4月 産婦人科部門増設

昭和31年4月 皮膚泌尿器科部門増設

昭和34年4月 温泉理学部門増設

昭和39年4月 附属の研究施設として附属病院が置かれた。

診療科 (内科、外科、産科婦人科、
皮膚泌尿器科)

昭和44年4月 温泉地生気候学部門増設

診療科、温泉地生気候内科増設

昭和57年4月 医学部附属癌研究施設と統合し生体防御医学研究所および附属病院となる。

平成2年6月 診療科—皮膚泌尿器科を体質代謝内科に変更

本研究所は、昭和6年10月31日九州帝国大学附置研究所として設置された。位置は別府市内の西北部、鶴見山麓にあたり、約10万㎡の用地で標高130m、別府湾を眼下に望み空気清澄、年間を通じて気温の変化が少なく、療養地として極めて好適である。

さらに、研究所設置と同時に置かれていた診療施設も、昭和39年から附属病院として認められ、臨床5部門をもって温泉治療の原理の探求とその臨床的応用に関する研究が継続されてきた。この間、人工気象室・治療庭園が造成され、自然環境あるいは人工環境を利用した治療へと拡大され、ユニークな治療医学センターとして脚光を浴びてきた。

昭和57年に至り温泉治療学研究所と医学部附属病院癌研究施設を統合し難治性疾患（癌を含む）の基礎から臨床への一貫した研究体制のもとに難病の原因の解明並びに診断、治療の確立を図る病院として名称も生体防御医学研究所附属病院となり現在に至っている。

2. 診療活動

内 科

古来より温泉治療の最適症は運動器の疼痛性疾患であった。このため当研究所開設当初からリウマチ疾患患者の来診は甚だ多く、内科の研究は必然的にリウマチ疾患へ向くことになった。なかでも慢性関節リウマチは患者の数も多く、原因が不明で治療法の確立していない難病であることから、最近では主としてその原因と治療に関する研究に力が注がれている。

膠原病は関節リウマチと同様に免疫異常疾患としてその原因や治療法に類似性が推定されている。従って診療と研究の両面から、これらの疾患も当科の重要な研究対象となっている。

痛風はリウマチ疾患として、肝疾患や血液疾患は免疫異常を伴うことが多いことから、しばしば当科の診療の対象となっている。また温泉は内科的慢性疾患のリハビリテーションに広く応用されている。

外 科

当所外科の主な診療対象は、食道・胃・肝・胆・膵・腸など消化器全般にわたる外科的疾患であり、その悪性腫瘍が圧倒的多数を占める。これらの診断、治療に必要な器具、装置をすべて備えており、年間手術例数は約250であり、うち、胃及び胆道疾患がそれぞれ30%を占め、また乳腺疾患も多い。

当所外科においては、これら悪性腫瘍疾患の外科的治療を積極的に行なうとともに、化学療法、免疫療法、放射線療法さらに温熱療法をこれに組み合わせる集学的治療の研究に力を注いでいる。

特に、化学療法と免疫療法を相乗的に組み合わせる新しい免疫化学療法を開発し、有効な成績を得てきている。

また、最近、温熱療法を強力に行なえるハイパーサーミアシステム(BSD-1000)が設置されたので、これを用いた併用療法を行ない成果をあげている。

産科婦人科

産科婦人科の診療体系は、子宮癌を主とする性器悪性腫瘍の診療と、不妊症の診療の2系列に大別することができる。大分県は子宮癌多発県として全国的に注目されており、その死亡率も毎年国内最高をしめしている状況から、従来必然的に子宮癌の診療が主流を占めてきた。すなわち、子宮癌の治癒率の向上は、一に早期発見と治療法の改善にかかっており、院外では対がん協会と協力して大衆の啓蒙と広範囲集団検診による早期発見に努め、院内ではコルポスコピー・細胞診・組織診の併用による診断精度の向上と、手術術式の選択とラルストロンの導入による放射線療法の改善に努力している。又不妊症は社会的背景をもつ複雑な問題をはらんでおり、ホルモンの微量測定法を駆使して、不妊症の内分泌学的因子の診断と治療を行うとともに、子宮・卵管因子についても、X線テレビ・描記式通水・腹腔鏡・子宮鏡などの最新診断法を応用して診断と治療の向上に努めている。

体質代謝内科

体質代謝内科は旧皮膚泌尿器科を改め、平成2年6月8日付けで開設された新しい診療科である。

臨床遺伝学の診療科としての内科は、わが国の大学では未だ数少なく、その使命は大きい。遺伝病に対する人々の古い偏見を正し、遺伝病は代謝の個人差の極端な場合に過ぎないという認識を普及させながら、遺伝病の診断、治療および予防に関するセンターとなることを目指し、整備を進めている。

日常診療としては、遺伝性疾患、代謝性疾患、神経疾患を中

心に、広く内科診療を行い、一般内科疾患における遺伝要因の解析にとり組んでいる。なお暫時皮膚疾患の診療も継続して行うことにしている。

温泉地生気候内科

気候内科は、気候その他の自然環境の影響をうける疾患の治療、予防を目的とし、環境と疾患の関連性を明らかにする研究を行なうため、昭和43年に発足した新しい内科である。

診療面では、外来、入院とも一般内科と同様に、内科疾患全般をとりあつかうが、特に気候内科の立場から、心筋硬塞、狭心症などの循環器疾患、かぜ、気管支喘息、慢性気管支炎などの呼吸器疾患、各種感染症などについて、環境、気候因子までをとり入れた診断、治療、予防を重点的に行っているのが特徴である。その目的のために、人工気象室、治療園を積極的に利用しての診療を実施している。

慢性疾患診療部

温泉治療、理学療法、リハビリテーションのすべての施設をもち、リウマチ性疾患、心筋硬塞、脳卒中後片麻痺、外傷後遺症、慢性皮膚疾患、更年期障害、慢性婦人科疾患などに応用されている。同時に理学療法の有効性の科学的根拠、その評価法についての研究が行なわれている。

人工気象室

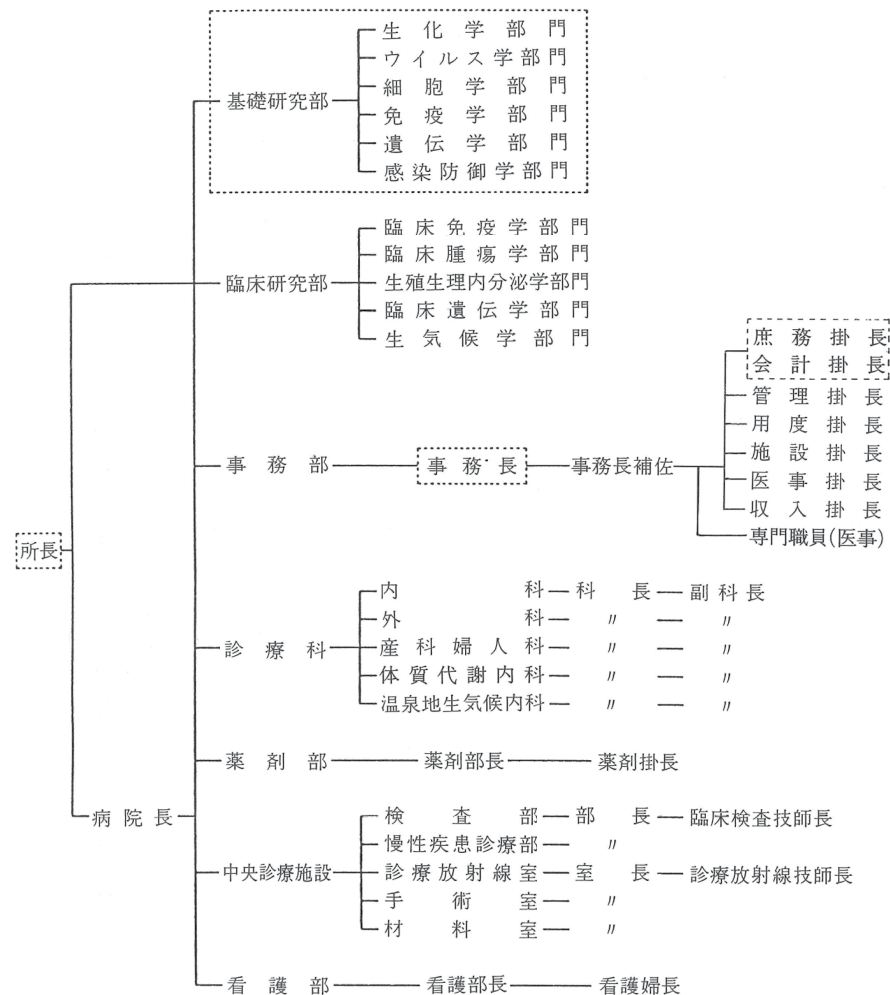
昭和48年3月に設置された本施設は、一階に機械室、二階に気圧コントロール室二室と温度コントロール室、中央監視室をもつもので、人工的気象下における生体反応の解析的研究と、診断治療的応用の研究が行われ、とくにいわゆる気象病に対する気候療法のパイオニア的役割を担うものとして内外から期待を集めている。

さらに呼吸循環器疾患の専門的診断、治療も人工気象室の設備を利用して行なわれている。

治療園

自然環境を利用した治療施設で、内外の関心を集めている。治療園は二部分に分けられ、東部平地部分は、主として脳血管障害後の片麻痺・外傷後遺症・神経疾患による運動障害・リウマチ性疾患などの治療地区(巧ち訓練地区)に当てられ、南西部森林地区は、その傾斜地形と自然環境を利用して、心疾患・呼吸器疾患・自律神経疾患などの治療地区(地形療法地区)としていいる。慢性疾患の診療、特にリハビリテーションに有用である

3. 機 構



注 は福岡地区に、その他は別府地区に所在

4. 役 職 員

病 院 長 (併)	秋 吉 毅
内 科 科 長	延 永 正
副 科 長	神 宮 政 男
外 科 科 長	秋 吉 毅
副 科 長	上 尾 裕 昭
産 科 婦 人 科 科 長	和 氣 徳 夫
副 科 長	
体 質 代 謝 内 科 科 長	鈴 木 友 和
副 科 長	西 村 正 幸
気 候 内 科 科 長	矢 永 尚 士
副 科 長	横 井 忠 滋
検 査 部 (併) 部 長	鈴 木 友 和
技 師 長	伊 藤 信 一
慢 性 疾 患 診 療 部 (併) 部 長	矢 永 尚 士
薬 剤 部 部 長	木 庭 義 昭
掛 長	本 明 載 彦
診 療 放 射 線 室 技 師 長	野 田 一 郎
看 護 部 看 護 部 長	板 屋 文 恵
看 護 婦 長	片 野 純 子
〃	奥 永 キ ヌ コ
〃	下 村 誠 子
〃	池 辺 篤 子
〃	屋 田 八 重 子
〃	吉 田 洋 子
事 務 部 事 務 長	三 角 正 次
事 務 長 補 佐	野 瀬 洋 一
専 門 職 員	尾 野 一 宏
庶 務 掛 長	観 音 寺 邦 宏
会 計 〃	川 上 義 明
管 理 〃	片 山 雅 志
用 度 〃	繁 松 一 弘
施 設 〃	吉 川 隆 義
医 事 〃	柿 原 佳 昭
収 入 〃	藤 原 修

5. 職 員 現 員 数 表

(平成2年7月1日現在)

	教 官	医 員 医 研 修 医	医 療 技 術 関 係 職 員	薬 剤 関 係 職 員	看 護 関 係 職 員	事 務 関 係 職 員	合 計
研 究 所	18					(11) 8	(11) 26
大 学 附 属 病 院	12	(14)	(2) 15	(1) 6	(10) 53	(6) 23	(33) 109

() 書は非常勤職員で外数

6. 病 床 数

(平成2年7月1日現在)

区 分 科 別	予 算 病 床 数	実 在 病 床 数	実 在 病 床 数 内 訳					種 別 病 床 数			
			上 級 病 床		重 症 病 床		普 通 病 床	一 般	結 核	伝 染	精 神
			特 等	1 等	個 室	2 人 室					
内 科	床 42	床 42	床 2	床 2	床 1	床 2	床 35	床 42	床	床	床
外 科	36	36	2	0	5	2	27	36			
産 科 婦 人 科	24	24	1	2	3	0	18	24			
体 質 代 謝 内 科	18	18	0	2	1	0	15	18			
温 泉 地 生 気 候 内 科	20	20	0	0	2	0	18	20			
計	140	140	5	6	12	4	113	140			

7(1) 診療科別患者数

(平成元年度)

区 分 科 別	実 在 病床数	入 院		外 来	
		患者延数	1日平均 患者数	患者延数	1日平均 患者数
内 科	42	13,439	36.8	9,627	32.7
外 科	36	12,490	34.2	5,341	18.2
産科婦人科	24	8,918	24.4	6,319	21.5
体質代謝内科	18	3,169	8.7	4,821	16.4
温泉地生気候 内 科	20	7,495	20.5	9,807	33.4
計	140	45,511	124.7	35,915	122.2

年間病床稼働率 89.06%

※ 皮膚泌尿器科は平成2年6月8日付けで体質代謝内科に科名変更になったため、本表の患者数は「皮膚泌尿器科」のものである。

7(2) 診療費用別患者数

(平成元年度)

区 分		入 院		外 来	
		延 人 員	百 分 率 (%)	延 人 員	百 分 率 (%)
自 費		392	0.86	1,254	3.49
社 会 保 険	被保険者	11,266	24.75	9,697	27.00
	被扶養者	7,505	16.49	7,066	19.67
	計	18,771	41.24	16,763	46.67
国民健康保険		14,550	31.97	10,932	30.44
老人保健		10,818	23.77	6,094	16.97
社 会 福 祉	全 額	916	2.01	872	2.43
	(一部)	(2,238)	(4.92)	(2,435)	(6.78)
校 費 患 者	全 額	64	0.14	0	0
	(一部)	(185)	(0.41)	(8)	(0.02)
合 計		45,511	100	35,915	100

() は再掲

8. 経理状況（平成元年度）

(1) 歳入

区分	入院	外来	計
基本診療料	448,789,707 ^円	40,148,110 ^円	488,937,817 ^円
投薬料	34,514,863	195,119,428	229,634,291
注射料	183,155,170	7,273,281	190,428,451
処置及び手術・麻酔料	99,016,452	3,201,688	102,218,140
検査料	101,068,333	99,038,673	200,107,006
レントゲン診断料	41,490,489	25,865,106	67,355,595
諸収	15,687,072	16,043,705	31,730,777
計	923,722,086	386,689,991	1,310,412,077

(2) 歳出

区分	大学附属病院	研究所	国立学校	施設整備費	計
人件費	629,274,270 ^円	170,802,260 ^円	45,031,790 ^円	^円	845,108,320 ^円
旅費	2,303,440	2,775,859	4,526,744		9,606,043
物件費	963,949,984	106,705,518	33,684,943	131,400,000	1,235,740,445
その他					
計	1,595,527,694	280,283,637	83,243,477	131,400,000	2,090,454,808

9. 医療機関の指定及び公費負担医療実施状況

法令等の名称	指定等の年月日
健保による保険医療	昭和36・10・29
国保による療養取扱	〃 36・10・29
原爆医療法による医療	〃 36・10・29
老人福祉法による医療	〃 48・4・1
生保による医療	〃 56・5・16
小児慢性疾患補助	
大分県	昭和53・1・18
山口県	〃 55・3・24
岐阜県	〃 58・8・11
北九州市	〃 59・6・2
東京都	〃 59・10・1
広島県	〃 60・1・14
特定疾患治療研究	
大分県	昭和48・8・1
熊本県	〃 49・6・1
宮崎県	〃 59・10・18
福岡県	〃 51・6・7
山口県	〃 55・3・24
愛媛県	〃 55・5・29
岐阜県	〃 58・8・11
東京都	〃 59・10・1
広島県	〃 60・1・14

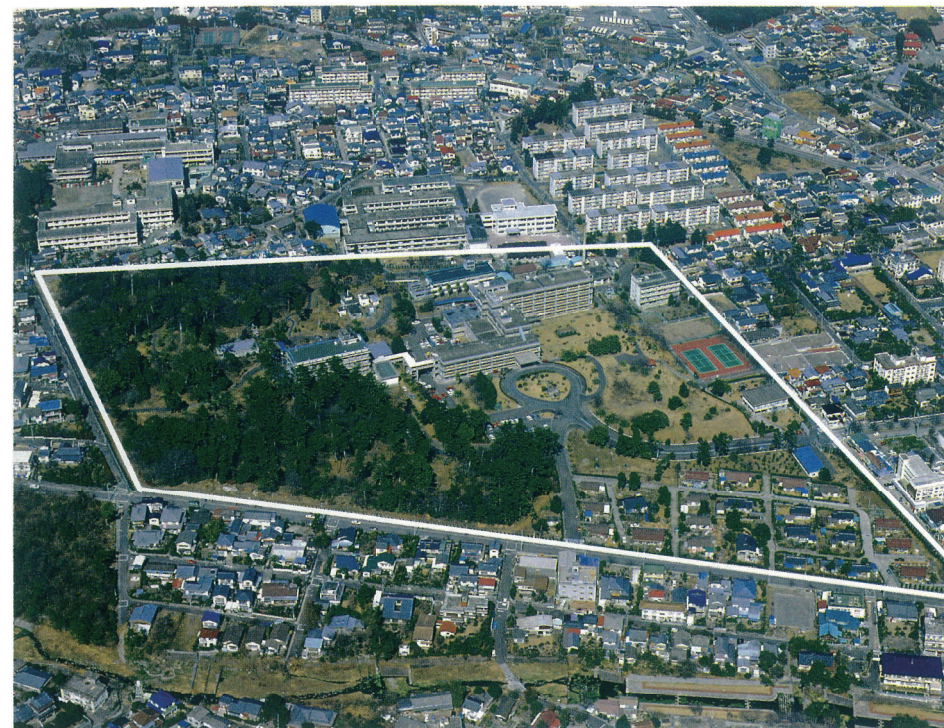
10. 敷地と建物

(1) 敷 地

所 在 地	面 積	備 考
○庁舎用地 別府市大字鶴見字鶴見原4546番地	m ² 86,731	福岡地区は、医学部構内 につき除く。
○宿舎用地 別府市大字鶴見字鶴見原4546番地	13,486	
計	100,217	

(2) 建 物

区 分	構 造	面 積		備 考
		建面積	延面積	
○庁 舎			13,384	
研 究 棟	RC-4	573	1,905	
図 書 室	RC-1	129	129	
図書閲覧室	RC-1	135	135	
中性子・アイソトープ実験室	RC-1	113	123	
危険薬品庫・高圧ガスボンベ室	B -1	23	23	
動物実験室	RC-1	180	180	
実験用動物舎	W -1	59	59	
中央診療棟・外来棟・病棟	RC-5	2,436	9,018	
理 療 棟	RC-2	545	996	
セシウム照射室	RC-1	67	67	
ボイラー室	RC-1	129	129	
車 庫	RC-1	142	142	
R I 廃棄作業室	RC-1	20	20	
R I 附属機械室	B -1	11	11	
R I 廃棄物保管室	RC-1	24	24	
病理解剖室	B -1	25	25	
ポンプ室	B -1	8	8	
渡廊下関係(研究棟、理療棟、その他)		156	390	
○宿 舎			2,810	
宿泊施設(薫幸寮)	RC-2	146	390	
看護婦宿舎	RC-4	268	1,091	
職員宿舎	W -1	1,329	1,329	24戸
計		6,518	16,194	



全 景



人工気象室・気圧コントロール室



治療庭園遊歩道



鉱泥浴



運動浴



ハイパーサーミアシステム

